

『標的の島風かたか』

映画と三上智恵監督の講演

この砦が、最後の希望

「壊れかけたこの国の、自由と平和をめぐる『最前線』」

監督・プロデューサー・三上智恵
 プロデューサー・藤本隆子、木下重貴
 編集・松岡健志
 監修・藤原真樹
 制作・プロデューサー・上道正樹
 協力・仲岡タカノ、エスエス、琉球新聞社
 製作協力・沖縄県映画制作委員会
 製作・DOCUMENTARY JAPAN、東風、三上智恵
 制作・東風
 2017年
 日本
 DCP・BD
 119分
 ドキュメンタリー



三上智恵監督最新作
 「標的の村」「戦場ぬしみ」

標的の島風かたか

hyotekinoshima.com

歌い、踊り、咲き誇る文化の力。「最前線」に集まる人々、新たな希望。

大学で民俗学も講じる三上智恵監督が描くのは、激しい抵抗や衝突だけではない。エイサー、パントゥ、アンガマ、豊年祭り。先祖から子孫へと連なる太い命の幹、権力を笑い飛ばし、豊穡に歓喜する農民の誇りと反骨精神。島々の自然と歴史が育んだ豊かな文化がスクリーンに咲き乱れる。そして、県民大会で古謝美佐子が歌う「童神」、辺野古のゲート前でかき鳴らされる三線の音色。高江のテントで「兵士Aくんの歌」を歌う七尾旅人のまわりには全国から駆けつけた若者たちの姿があった。この一年で安全保障政策を大転換したこの国で、平和と民主主義を守る闘いの「最前線」はどこか?それに気づいた人々が、今、沖縄に集まっているのだ。

この映画の明るさはすごい。抵抗し、ごぼう抜きにあいながら、人々は歌う、踊る、笑う。一人ひとりが昂然と胸を張っている。みんなのあふれ出す命の輝きに胸打たれ畏敬の念を感じる。本土から派遣された機動隊員の顔の死んだような無表情に、私たち本土の人間の沖縄に対するうしろめたさを重ね合わせずにはいられない。辺野古・高江だけでない。沖縄県の島々を自衛隊が新たに基地化し、国は沖縄全体を仮想敵国の“標的”にする気なのだ。この映画はそれを教えてくれる。

高畑勲 (アニメーション映画監督)

三上智恵監督来演

「標的の村」「戦場ぬしみ」に続き、高江・辺野古・南西諸島の基地建設と沖縄県民の闘いを追い続ける三上監督から、この作品にかけた熱い思いをお話していただきます。



● 2017年9月24日(日)

午前の部 10:00~12:30 (映画10:00~・講演12:00~)

午後の部 13:30~16:30 (映画13:30~・講演15:30~)

● 子午線ホール(アスパア明石北館9階)

● 入場料 : 前売り1,000円(当日1,200円、60才以上1,100円)、学生・障がい者500円 中学生以下無料

● 主催 : 『標的の島風かたか』上映明石実行委員会

(賛同団体) 1女性会議明石、明石市職員労働組合、明石市立市民病院労働組合、明石市水道労働組合、明石シネマクラブ、明石市非常勤給食調理員労働組合、あかし地域ユニオン、明石地労協人権平和センター、明石民主商工会、9条の会連絡会、憲法を生かす会明石、憲法を生かす会加古川、原水爆禁止明石協議会、社保労連兵庫県支部連絡協議会、JR総連兵庫県協議会、JR西労明石電車区分会、JR西労関西地域本部、JR西労神戸工務分会、JPネットひょうご、自治労兵庫県本部、自治労兵庫県本部播磨ブロック共闘会議、熟年者ユニオン明石支部、総がかり行動明石、全教明石教職員組合、全港湾神戸支部、全日本建設交運一般労働組合明石地区協議会、脱原発明石・たこの会、東播建設労働組合、東播地区労働組合協議会、ピースネット明石、ピースフェスタ明石、ぴいぶる明石、兵庫県職員退職者会、兵庫県職員労働組合神戸支部、兵庫県職員労働組合西播支部、兵庫県職員労働組合東播支部、ひょうごユニオン
 (後援) 朝日新聞神戸総局、神戸新聞社、サンテレビジョン、ラジオ関西

(チケット販売所):ピースネット明石のほか、次の団体でも取り扱っています。 ・明石シネマクラブ(090)3860-6662
 ・明石民主商工会(078)924-0661・9条の会連絡会(090)7101-3258・憲法を生かす会明石(090)2110-8542
 問い合わせ ピースネット明石(窓口:明石地労協人権平和センター) Tel (078) 912-2797